

改革案批判

現実を忘却した 改革はあり得ない 理念ではなく現実を問題にせよ

□ はじめに

市大改革斗争が半年に及ぼうとしており、又、政府又
都省、自民党が70年保健改訂期を前にそれ以降をも見
おして日本市国主との再編の一環として、大学一 教育
の市国主との再編を遂行すべく延長国会で大学臨時立
法なるものを強行せんとしている中、7月30日大
学改革案を本学全和議員の連署で改革討議と大
学のあり方に關する内外の公論をひきこむた
めの試案であり、としていふ。

これに対して我々は、現実の情勢の中で、この「改革
案」の持つ意味と内容を正確に把握し、全和の学生
院生、教職員の前に明らかにすると同時にその「からん
の斗」の方向性を明確にせねばならぬ。夢内諸
階級の二つの「改革案」に關する討議はすでに始つて
いるのであるが、その中で無原則的討議は行われ
り、又、一方、内容を、批判を抜きにしてキメツとレッ
テルはりによつて処理してしまふ部分も存するだろう。
我々は無原則的討議や内容を批判を抜きにしてキメツ
ケ、レッテル貼りを徹底して拒否せねばならない。それ
故に、まづオ一に我々は二つの「改革案」なるものを
把握し、評価する際の我々の視座を確立する必要がある
だろう。

1 「改革案再考案」の評価の視座を
無原則的討議を拒否せよ

おのそ、一の「改革案再考案」にせよ、類似物にせよ、
・重に各支部で「改革案」になるものが提案されるであ
るつゝ、無原則的な討議は現実ならぬに於て行なわれ
るものである。一の「改革案再考案」も現実ならぬに
於て30日由來も置かれて、いりあげられたものに
他ならない。それ故、我々はこの「改革案再考案」と

握し、評価する際の視座を絶対に欠落、せしてはならな
いのは、現実との関係である。「再考案」なるものな(一説
これに人は、オ一に懸念した事と思つた、現実との関係
が極めて希薄である以上、それ自体を取沙汰する中に
我々自身がこもすれば、現実との関係を失ふ。再考案
と同じレベル、同じ誤まりにまで転落する危険性がある
事を指摘する必要があるだろう。一の案を指摘する事は
単に「改革案再考案」を、評価する際の問題に留まらず、
現在、斗は取、なれていゝ全国学園斗争一市大改革斗
争の中で「改革とは何か」を再度、確認する際の重要な
視座なのである。

我々が無原則的討議を拒否するためには、常に現実と
の関連において全を把握せねばならぬ。現実から
切り離れ、必然的に「理念化」せざるをえず、又、
その「理念」の何たるかは現実を抜き去られていゝ以上、
それは純粹に觀念論である。一の觀念論をとりなえ
たことは、現実の問題に対して何ら有効なものとはい
えない。又、具体的な改革を實現の彼方におしやり、
我々が現実から切り離る役割りしを担はない。(我々を
とりなす現実とは、政府、自民党が大学臨時指書案を二
一版圖のうちに強行採決をはかろうとしており、又、市
議會自民党とも結託して、医学部斗争、市大改革斗争を
無に帰せつと暗動してゐるのに) 従つて我々は、あ
くまで執着する程にまで現実との対比の中で、この「改
革案再考案」なるものを取り扱ふてはならないし、そ
の評価の視座、あるいは標準もそれにて現実の中にあり、
それが現実の要請一政府独自の大学及び教育の再編支
配に對し、言葉の裏の

ハウテハ続く

